

「第2回鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊（土湯の森）自然再生実施協議会議事録要旨」

1. 日 時 平成20年5月1日（木）13：30～15：30
2. 場 所 戸沢村役場3F 301会議室
3. 出席者 委員
今井正委員 大川雄三委員 海藤清志委員 齊藤寿美雄委員
佐藤景一郎委員 佐藤稔委員 高橋教夫委員 田中敏喜委員
出川真也委員 寺内恵一委員

事務局

戸沢村産業振興課商工観光交流主査

東北森林管理局計画部長 指導普及課自然再生企画官

山形森林管理署最上支署長 最上支署管理官

朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター所長 自然再生指導官

○開会

○東北森林管理局計画部長挨拶

連休の最中、ご出席頂きましてありがとうございます。この協議会は、自然再生を推進していくために必要な事項を協議して頂くことを目的として、昨年5月に自然再生検討会を引き継ぐ形で、立ち上げました。また、昨年の事業の実施に当たっては、各委員の皆さんにご協力を頂きまして本当にありがとうございました。

今年は地球温暖化対策でCO2の6%削減のうちの3分の2を森林が担うという国際約束が始まる年で、7月には北海道の洞爺湖で環境サミットが行われます。また、それらを推進する形で「美しい森づくりの国民運動」を地域の人達がそれぞれの地域で参加しながら森を作っていくような取組を積極的に進めることとしています。

自然再生の取組についても、「美しい森づくりの国民運動」の一環として位置づけられるものについては、そうしながら積極的に取り組んでいきたいと思っています。

今日の会議では、事務局の方から去年の活動状況、あるいは今年の計画についてご説明を申し上げます。それぞれのお立場からご議論を頂きたいと思っておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

○司会

委員紹介、事務局紹介、資料確認。

○会長

スキー場の跡地をかつての土湯の森という自然に再生する目的で実施協議会が発足してから、1年が経ちました。昨年は、モニタリング調査や刈り払いも行われたようです。本日は今年予定されている植樹も含めて皆さんにご審議して頂くことになっております。スキー場の自然再生という大幅に人の手によって自然が改変された場所の自然を取り戻すという試みでは、自然を相手にすることですし、何が起こるか分から

ないという面も持っていると思います。モニタリングも含め、慎重にご審議頂きながら、豊かな自然を取り戻していけるように進めて行きたいと思っておりますので、ご協力をよろしくお願い致します。

それでは、「平成19年度「土湯の森」づくり事業報告について」事務局の方からご説明お願い致します。

○事務局

資料1「平成19年度「土湯の森」づくり事業報告」について説明。

○会長

ただ今のご説明につきまして委員の皆さんからご意見、ご質問ありましたらお願い致します。

○委員

資料5 ページの②の所には、アカマツが1本見られます。写真で赤表示されている調査周辺では刈り払いが行われたのでしょうか。

○事務局

②の所については、森林再生ゾーン内で手を加える箇所を対照区として設定したもので、刈り払っておりません。

○会長

調査地では稚樹がほとんど無い状況でした。できるだけ早い再生ができるような手立てを考えていかないといけないと感じました。

昨年の取組についてご報告頂きましたが、ご質問、あるいは今年に向けて良いやり方や改善すべきところありましたら、ご意見をお願いしたいと思っております。

○委員

先程、募集の仕方に非常にご苦労されているという話を聞きました。結構おもしろい取組だと思うんですけど、参加人数がもうちょっとあるといいなという印象は私も持ったところでした。

昨年度は最初だったので色々と暗中模索のところもあるのかなという気はするんですが、8月の事業であれば募集の時期を夏休み前の学期末に先生方からお話頂けるような、募集のタイミングを考えた方が良く感じました。

それから、子供達を対象とした場合、作業だけではやはりなかなか魅力的なプログラムとは言えないと思います。最上峡の素晴らしい自然や、近くにいろんな文化を持った集落がありますので、地域の資源を活用するような中身が入っているといいのかなと思います。例えば、散策とかネイチャーゲーム、それから食育でしょうか。

11月3日の取組は「森の食材」を食べるところだけ参加してくれた方もいて、予定していた人数よりずいぶん多くなり足りなくなるくらいでした。地元で地域資源を研

究して食材を出すという団体もありますので、そういうところと連携して森の食育の要素を入れたり、あとは地元の森の素材を使ったような、ちょっとした記念品みたいな物が出せると、モチベーションが高まるのではないかという感じがします。特に若い方々やお母さん方は、食の部分やネイチャーゲーム的な部分に関して、関心を持っている方々もいるので、そんな要素も入れながら募集するともうちょっと参加率も高まるのかなと思います。

里の自然環境学校ではありとあらゆる考えられるメニューを豊富に入れて募集をかけるということをしております。山のこの部分は関心ないんだけどこの部分はすごく関心があるとかと結構ありますので、織り交ぜるといいのかなと思います。

○会長

確かに楽しみながらという要素がないと大人も参加が難しくなる気がします。その点は配慮頂きながら改善していった方が良いと思います。

それでは、2番目ですけれども「森林環境教育に関するアンケート調査報告」ということで事務局の方からお願い致します。

○事務局

資料2「森林環境教育に関するアンケート調査報告」について説明。

○会長

アンケートの結果についてご報告頂きました。アンケートを回答して頂いたのはどういう方ですか。

○事務局

どなたが回答して頂いたかというデータは持っていませんが、電話でお問い合わせ頂いた先生とお話を聞いたり、アンケートに書かれている内容を見ると学校で主に環境教育を担当されている先生からのご回答が多いと思っています。「学校全体の意見を集約したというものではありません」とご報告頂いたものもございます。

○委員

森林の働きという内容の授業は、小学校のどの辺から教えているのでしょうか。

○事務局

小学校の指導要領の中では5年生で取り扱うような内容になっており、5年生の教科書から取り扱われているようですが、中学校については承知していません。

○会長

それは、総合学習の時間でやっているということなのでしょうか。

○事務局

昔は社会科なんだろうが、今でいうと生活科でしょうか。教科書では、林業という言葉だったかどうか分かりませんが、山の仕事とか、山を育てるとか、幅広い山間部の生活という形で載せてあったように思います。

○委員

このアンケートの4ページにある「どのような内容であれば、森林環境教育に最上川スキー場跡地及びその周辺を活用したいとお考えですか」という質問で、いくつか抜粋された意見が出ています。森林の学習だけでなく、川の学習もといった意見も書いてあります。この要素も入れながら、事務局だけでは対応が難しいところに関しては地元の色々な地域団体や活動団体、あるいは専門家からの助力も頂いてイベントを組んでいくということも重要ではないかと思えます。

○会長

ありがとうございます。アンケートにあるように移動手段というのはネックになっているようです。それでは、先に進めさせていただきます。

3番目「平成20年度「土湯の森」づくり事業計画」について、事務局の方からご説明お願い致します。

○事務局

資料3「平成20年度「土湯の森」づくり事業計画」について説明。

○会長

今年度の事業計画案について説明を頂きました。昨年1年しか経験していないので、まだ色々と試行錯誤があると思いますが、今の段階でより良い計画作りをしていくため、ご意見やご質問をお願いしたいと思います。

○委員

昨年、山取のご案内を頂いた時に、私どもの行事とぶつかってしまい、参加できないというお返事をさせていただきました。年間スケジュールを早めに頂ければ、調整も可能だと思うので、できれば早い時期にお願いしたいと思います。これは、小学生、中学生の参加についてもそうではないかと思えます。3月中には学校行事のほとんどが決まってしまう状況にあるので、後から参加を要請されても、学校の方ではやりにくいと思えます。

それから、山取の報告で樹種の話が出ておりましたが、ブナ林にするとか具体的な目標があるのであれば、教えて頂きたいと思えます。また、バックホウを使って植穴を作るというような話がありましたが、前にも少し話をしたとおりに、そこにかえって水が溜まらないかなといった心配もあります。その辺の考え方をお伺いしたいと思います。

○事務局

年間スケジュールについてはごもっともなお話だと思います。来年度以降の取組については、できれば前の年度くらいに学校などへ当たれるようなスケジュールを念頭におきながら進めたいと思います。

目標とする樹種構成については、今、具体的なものはありませんが、去年、山取で採ったもののほとんどがブナでした。ブナはご存知のとおり極相林ですので、最終的にはスキー場跡地もブナ林に近い林になるかもしれませんが、現時点でブナのみという姿はあまり自然の姿ではないだろうと思っています。周辺の山で遷移の始めの方がどのような姿になっているのかということをおきながらそれに近い形の構成というものも検討したいと思っています。

植穴について、実施計画の中では40cm四方の穴を空けた上で苗を植えるとなっています。バックホウの場合、穴の規模は若干大きくはなると思います。水溜まりの試験をしたわけではありませんが、水が溜まり放しになるというようなところではないというように思っています。実際やってみないことには、何とも言えないのは確かです。

○事務局

前の検討会において、ヤマブドウの植栽でバックホウで使った事例を報告いただいた際に、水溜まりにより生長が思わしくなかったというお話を聞いたと思います。確かに、バックホウで掘った箇所は周りより水が浸透しにくいという状況が出てくるかもしれませんが、それよりも人力で植穴が十分に確保できなかった場合の乾燥を危惧しているところです。こんことから今回はバックホウの使用について、提案させていただきました。なお、すべてバックホウを使用するというのではなくて、人力とも比較できるようにしたいと考えています。

○事務局

参考までお知らせします。秋田県の森吉山山麓にある広大な牧草地では、自然再生法に基づいた緑化再生をしています。県主導で去年から実施されているものなので、まだ成功したというわけではないのですが、ここでのやり方を参考にお知らせしたいと思います。植栽するブナの小さい苗は30cm～50cmくらいのもので、大苗1m～2mくらいのもので、小さい苗の場合は直径50cm、深さが30cmの穴を掘り、大きい苗の方は直径80cm、深さが50cmの穴を掘ることとしています。リッパという機械で固い土壌を掘り起こし、完熟堆肥とかバーク堆肥などを入れながらロータリーで砕土、鋤込みしています。そこでは、根腐れの心配もあるということで、15cmくらい土を高くするというような方法で去年から実施されています。色々な情報を聞きながら、良いと思えるものは土湯の森での再生活動にも取り入れたながらやっていければと思っています。

○委員

平成19年度500本山取をしたものを平成20年度の植栽では約300本植栽するという説明がありました。生存率が60%なのか、1年経ったら、残り200本の

方はどうなったかお知らせください。

○事務局

去年の山取は、小学生の子供達にも協力してもらいながら実施をしました。ビニールポットに土を入れ、スキー場跡地近くの林内で冬越しさせたところですが、ポットのまま冬越しさせるとということと丁寧な掘り取り作業ができたかなど、枯れる心配もありましたので、安全を見ながら多く山取したところです。現地を確認した所、ほぼ良い状況で冬を越してくれたようです。今年度は、300本植える計画としてますが、他の小学校が植樹体験をやってみたいなどの要望があれば残りを使って実施するなど、活用ができるのではないかと考えております。

○委員

シートでやった所というのは刈り払いをしないのですか。

○事務局

防草シートは、雑草を抑えることを目的として作られたもので、状況にもよりますが必要ないと考えています。特に今年度植える場所は、非常に土壌の条件が悪いということでススキとか、タニウツギさえも出ていないような状況です。

○委員

シートは何で押さえるのですか。

○事務局

色々押さえるものはあると思いますが、考えているのは生分解性のピンと現地の石などを使いたいと考えています。シートの四隅は少なくとも生分解性のピンを使い、他は石で少し押さえるようなイメージを持っています。仮に風などで飛んでいった場合でもあまり環境に負荷を与えないということで生分解性のものを使用する考えです。

○委員

それは、下刈機に絡まないほど1年位で土に返ってしまうものなんですか。

○事務局

土に埋めて実験をしたみたことはあるませんが、1年、2年ですぐに腐るものではないと思います。

○委員

刈り払い機に引っ掛かって、刈る方からすると邪魔になるんじゃないかなと思うんですが。

○事務局

シートは植え付けした所に使用することになります。本来の使用目的とは違います

が、乾燥防止の為に使ってみるということで考えたものです。シートを使用した箇所は下草の生長を抑えることになるでしょうし、それ以外の箇所でも土壌の状況を見ると下草が急激に伸びてくるということにはならないと考えています。植栽するところについては、今年や来年の刈り払い作業は考えておりません。

○会長

植栽を6月中くらいには実施したいという説明がありましたが、どういう方を対象に募集するのか、お聞きします。

○事務局

参加のお話しをいただいている方もおりますが、村民の方に広く募集をしようと考えています。できれば子供達を含めた取組にしていきたいという希望もありますので、どういった形で参加をお願いするか考えていきます。去年は古口小学校の生徒に参加して頂きましたので、引き続き参加できるような状況にあるのか、他の学校も含めて相談をしたいと考えております。

○会長

かなり穴を掘るのは難しそうな所なので、子供さんを対象に考えているようであれば、簡単にできるような準備にしておかないと難しいでしょうね。

○事務局

石が多く固い土壌なので、非常に厳しいという印象を持っています。事前にバックホウの小さいもので植穴を掘って、培養土などと混ぜておき、事業当日に植え付けする方法が一番実施しやすいのではないかとということでご提案をさせて頂きました。

○委員

私達も平成2年の時にブナの植え付けをしました。その時の経験から言いますと、小学生を対象にした場合は、事前に準備をしておかないと難しいと思います。その時は唐鍬で一鍬大人が入れて子供が植えるといった格好でやっていました。大体2500本位を100人位で植え、小学生に一人一人名札を作ってもらい植えた所に立てて頂きました。1年後、2年後に見に来てくださいというようなお話しをして、次の年は観察会兼ねた下刈りをやりました。なかなか来ては貰えなかったんですが「私の植えた苗はどうなっていましたか」という照会も頂いたので、写真を撮ってその方に見せてあげたりしています。1時間あれば一人10本以上は植えられますから、仮に500本植えるとしても、30人位集まれば十分可能じゃないかなと思ってます。私達もお手伝いしたいと思いますので、なるべく早く日程を教えてくださいをお願いします。

○委員

募集と少し関わるかもしれないんですが、土湯の森づくりの日程とか、進行状況とかは、リアルタイムである程度確認できればという思いもありますので、ホームペー

ジを立ち上げるというのはどうでしょうか。事業の実施案内と実施後に参加者から何か声を頂いて、それを掲示板みたいな形で掲載し、事務局の方からのお知らせも入れるといったものです。

角川の里の自然学校や私共がやってるNPO法人のホームページでは、ブログとか掲示板でそのようなことを行っています。そのような機能が入ったようなホームページがあった方が便利がいいのかなと気がしますが、可能でしょうか。

○会長

確かに今の時代はインターネットを通じていろんな情報を集める方が多いので、あると良いと思います。その為には、それを管理・維持することも必要になってきます。その辺の所も含めて事務局の方からお願いします。

○事務局

ふれあいセンターのホームページはあるので、そこに逐次状況をアップするという事は可能ですが、掲示板とかブログみたいなものは、システム上できないこととなっています。何か近いような形をとることが可能であるかどうか検討してみたいと思います。

○委員

アイディアなんですけど、ホームページのデザインを掲示板とかブログ的なものにして、実際その機能はなくても下に掲載希望の方はメールでというようにすれば、良いと思います。送られてきたものをブログとか掲示板的なデザインのものにアップするというような形でもいいのかなと思います。セキュリティの関係上から問題があるということで、そうなっていると思いますのが、検討して頂きたいと思います。

○会長

検討して頂ければと思います。

○事務局

今年度の取組ということで植え付けの関係をご説明させて頂きました。表にあるように270本の植栽箇所について、事前にバックホウで植穴を掘るという準備作業をやりたいと思っています。それから、人力で植え穴を掘る箇所についても、事前に事務局の方で植え穴を掘って客土と混ぜておき、当日はすぐに掘れるような形にしておきたいと考えております。この点について、了解を頂ければと思っております。それから、実施日の関係ですが、早々に日程を決めて各委員の方へご案内をさせて頂きたいと思いますので、よろしくお願い致します。

○会長

今の件に関して何か、ご意見等ございましたらお願いします。また、最後の部分で共通的なことで議論をさせて頂きたいと思います。それでは、4番目の議事に進めさ

せて頂きます。「みどり環境交付金事業について」ということで事務局の方からご説明をお願い致します。

○事務局

資料4「みどり環境交付金事業について」について説明

○会長

みどり環境税で予算化されたということで、これについてご質問、ご意見ございましたらお願い致します。

予定されていましたが議題4つが終了しました。それでは私の方から、今までの議論を振り返らせていただきながら、これから行う取組についてもご協力をお願いしたいと思います。昨年からスタートして1年経ったところですが、その取組も含めて色々のご議論頂きました。このような取組は、できるだけ多くの方に参加して頂けるしていくことが必要だろうと思います。その為には、多くの委員から話しがあったように、年間スケジュールをできるだけ早くして、学校も含め、いろんな所で調整ができるようにしておくことが必要ではないかと思えます。もう一つは、いろんな興味のある分野や楽しみのある内容をメニューに入れるということです。これからの計画については、そういう方向で是非検討して頂ければと思います。それから、やはり皆さんに知って頂く為にどうするかという点です。なかなか実施となりますと難しいことがあるかもしれませんが、提案があったようにホームページを活用して多くの方にお知らせしながら、ご意見も寄せられるような形で進めて頂ければと思います。

これからブナ等の植栽を行うこととなっています。実施には、事務局の事前準備がかなり必要ではないかというご意見が多く出ていましたので、その辺も十分配慮して進めて頂くようお願いをして、まとめとさせていただきます。これで、本日の協議会を終わらせて頂きたいと思えます。ご協力ありがとうございました。

○事務局

本日はありがとうございました。本日頂いたご意見等をしっかりと踏まえまして、本年度の事業がきちんと進むように事務局として頑張ったいと考えておりますので、引き続きご指導等頂ければと思います。本日はどうもありがとうございました。